震災後のわが社

丸三製紙株式会社
～つぎの100年に向けて～

所在地：南相馬市
事業内容：板紙（段ボール原紙）・
特殊紙（機能紙）の製造・加工・販売

丸三製紙株式会社は、もうすぐ創業100周年を迎えようとしています。1923（大正12）年、東京都足立区で神山商店として創業し、1943（昭和18）年に丸三製紙株式会社へ社名を変更しました。その後、1952（昭和27）年に原町市（現：南相馬市）の誘致企業第一号として同市に工場を建設、1996（平成8）年に本社を福島県同市に移転しました。

東日本大震災ならびに東京電力福島第一原発事故からまもなく8年半が経とうとしています。当時は、原発事故の放射能問題から一時、工場の閉鎖を余儀なくされましたが、同年6月には全国各地に避難していた従業員全員が会社に戻り操業再開を果たすことができました。あの大震災の経験から、社員同士の絆がより一層強まったと実感し、当たり前が当たり前でなくなったことで「人」や「物」の大切さを改めて知る大きなきっかけになりました。

当社は「段ボール」を構成する2種類の原紙（段ボール原紙）を製造しています。段ボール原紙とは、段ボールの表面と裏面に使用される「ライナー」と、波型に加工し2枚のライナーに挟まれた「中芯」の二種類の紙のことです。また、段ボール原紙は、ほとんどが一度使用された段ボール古紙を原料として製造されています。当社の古紙使用率は98％です。つまり、段ボール原紙は資源を有効利用した「リサイクル商品の優等生」といえます。

また、紙に特殊な機能を持たせた特殊機能紙も製造しており、油吸着マットや畳用の保護材など多岐にわたる製品を製造しています。

2014（平成26）年12月、当社ならびに当社が所属するレンゴーグループ全体が待ち望んでいた世界最新鋭のライナー抄紙機・8号抄紙機が遂に完成しました。最新鋭の設備と技術が導入された抄紙機ということもあり、業界から大きな注目を浴びました。工事は2013（平成25）年7月に着工したものの、震災や原発事故による労働力の減少・東北各地での復旧工事ラッシュ等の影響により、建設作業員や諸資材、宿泊地などの不足が深刻な問題となり、大幅な遅れが生じました。しかし、建設業者をはじめレンゴーグループ全体の総力を結集し、約一年半という短期間で無事完成を迎えることができました。

8号抄紙機の導入により、品質や生産性の向上だけではなく、環境面への配慮といった意味でもニーズが高まる「薄くて、丈夫な軽量原紙」の製造や省エネ化、古紙使用率アップなども可能となりました。全長約150m、幅10m、高さ20mにも及ぶ8号抄紙機は、毎分540mものスピード稼働しており、およそ80分でフルマラソンの距離に匹敵する長さの原紙が製造可能です。また、生産・販売量が飛躍的にアップし、2017・2018年は2年連続で売上高伸び率が業界No,1を記録、今後更なる増産・増販を目指して全社員が一丸となってそれぞれの役割を果たすべく邁進しています。

当社は4年後の2023年に創業100周年を迎えようとしており、これに向けた中期経営計画「丸三アニバーサリープラン100（通称MAP(マップ)100）」をスタートさせています。MAP100では、当社の成長戦略だけではなく、「※ SDGs」の推進を通して当社の関わる環境、エネルギー、経済、教育などの諸問題を解決し、次の100年のさらなる成長に向けた基盤を作っていこうという想いも込められています。

SDGsへの主な取り組み内容は次のとおりです。

〇自然環境・エネルギー
①重油を燃料とするボイラーの非常用化による重油使用量削減
②液化天然ガス（LNG）を燃料とする新発電ボイラーの導入によるCO_2排出量の削減

〇働きがい・経済成長
①生涯現役社会を見据えた「定年延長」と「賃金制度の見直し」
②「出産祝金制度」による少子化対策や子育て支援
（第1子：2万円、第2子：5万円、第3子以降：50万円）

また、有給休暇取得率84％、育児休業取得率100％などは、従業員のワークライフバランスにつながっています。

当社は前述のような様々な取り組みを通し、地域社会の復興と発展に貢献し、みなさまに愛される会社を目指します。また、従業員の幸せを願う安定収益のある魅力ある会社となるべく、今後も事業に取り組んでまいります。

※ SDGsは、国連サミットにおいて、世界中のすべての人や地球にとって最も重要な目標として採択された17の持続可能な開発目標のこと。